

3

二十五史

南隋周北魏陳  
史書書齊書書  
書

閱



版

1911

1912

1913

1914

1915

1916

1917

1918

1919

1920

1921

1922

1923

1924

開明書店鑄版

二十五史

章鈞題

陳書 魏書 北齊書 周書 隋書 南史

# 陳書

開明書店鑄版

陳書序

陳書六本紀三十列傳凡三十六篇唐散騎常侍姚思廉撰始思廉父察梁陳之史官也錄二代之事未就而陳亡隋文帝見察甚重之每就察訪梁陳故事察因以所論載每一篇成輒奏之而文帝亦遣虞世基就察求其書又未就而察死察之將死屬思廉以繼其業唐與武德五年高祖以自魏以來二百餘歲世統數更史事放逸乃詔撰次而思廉遂受詔為陳書久之猶不就貞觀三年遂詔論撰於秘書內省十年正月王子始上之觀察等之為此書歷三世傳父子更數十歲而後乃成蓋其難如此然及其既成與宋魏梁齊等書世亦傳之者少故學者於其行事之迹亦罕得而詳也而其書亦以罕傳則自秘府所藏往往脫誤嘉祐六年八月始詔校讐使可鑄板行之天下而臣等言梁陳等書缺獨館閣所藏悉不足以定著願詔京師及州縣藏書之家使悉上之先皇帝為下其事至七年冬稍始集臣等以相校至八年七月陳書三十六篇者始校定可傳之學者其疑者亦不敢損益特各疏于篇末其書舊無日列傳名氏多闕謬因別為目錄一篇使覽者得詳焉夫陳之為陳蓋偷為一切之計非有先王經紀禮義風化之美制治之法可章示後世然而兼權尚計明於任使恭儉愛人則其始之所以興或於邪臣溺於嬖妾志患縱欲則其終之所以亡與亡之端莫非自致者至於有所因造以為號令威刑職官州郡之制雖其事已淺然亦各施於一時皆學者之所不可不考也而當時之士自爭誇詐偽苟得偷合之徒尚不列以為世戒而況於壞亂之中蒼皇之際士之安貧樂義取舍去就不可為患禍勢利動其心者亦不絕於其間若此人者可謂篤於善矣蓋古人之所思見而不可得風雨之詩所為作者也安可使之泯泯不少概見於天下哉則陳之史其可廢乎蓋此書成之既難其後又久不顯及宋興已百年古文遺事靡不畢講而始得盛行於天下下列於學者其傳之之難又如此豈非遭週固自有時也哉臣何臣穆臣藻臣覺臣彥臣若臣涿臣肇謹敬目錄昧死上

陳書卷一

本紀第一 高祖上 姓陳氏諱高先  
本紀第二 高祖下  
本紀第三 世祖諱禧  
本紀第四 廢帝諱伯宗  
本紀第五 宣帝諱顛  
本紀第六 後主諱叔寶  
列傳 陳書卷七  
列傳第一 高祖章皇后 世祖沈皇后 高宗柳皇后 後主沈皇后 張貴妃  
列傳第二 杜僧明 周文育 子寶友  
列傳第三 侯安都 侯瑱 歐陽頠 子純 吳明徹 裴子烈  
陳書卷八 列傳第四 周鐵虎 程靈洗 子文季  
陳書卷九 列傳第五 黃法範 淳于量  
陳書卷十 章昭達

陳書卷十二

列傳第六 胡穎 徐茂 子敬成 沈恪  
列傳第七 徐世譜 荀悉達 荀朗 子法尚  
列傳第八 周敷 周吳  
列傳第九 衛陽獻王昌 南康愍王曇朗 子方慶  
列傳第十 宗室 陳詳  
列傳第十一 陳慧紀  
列傳第十二 趙知禮 蔡景歷 謝岐  
列傳第十三 劉師知 謝岐  
列傳第十四 王沖 王通 弟勣  
列傳第十五 袁敬 兄子福  
列傳第十六 陳書卷十八  
列傳第十七 沈炯 虞荔 弟奇  
列傳第十八 馬樞  
列傳第十九 劉仲舉 韓子高  
列傳第二十 華皎  
列傳第二十一 陳書卷二十一

陳書卷二十二

謝哲 蕭乾  
謝殿 張種  
王固 孔奐  
蕭允 弟引  
陳書卷二十二 陸子隆 錢道戡  
列傳第十六 駱牙  
陳書卷二十三 陸縯 王瑒  
列傳第十七 沈君理  
陳書卷二十四 周弘正 弟弘直 弟彥 袁憲  
列傳第十八 裴忌 孫瑒  
列傳第十九 徐陵 弟孝克 弟儼  
陳書卷二十 列傳第二十一 江總 姚察  
陳書卷二十一 列傳第二十二 世祖九王 始興王伯茂 鄱陽王伯山 晉安王伯恭 衡陽王伯信 廬陵王伯仁 江夏王伯義 武陵王伯禮 承陽王伯智 桂陽王伯謀 高宗二十九王 長沙王叔堅 豫章王叔英 宜都王叔明 建安王叔卿 新蔡王叔齊 河東王叔獻 晉熙王叔文 淮南王叔彪 始興王叔重 尋陽王叔儼 岳陽王叔儼 義陽王叔達 巴山王叔雄 武昌王叔處

- 湘東王叔平 臨賈王叔敖
- 陽山王叔宣 西陽王叔穆
- 南安王叔儉 南郡王叔澄
- 沅陵王叔興 岳山王叔詔
- 新興王叔猷 巴東王叔詔
- 臨海王叔顯 新會王叔坦
- 新寧王叔隆 南昌王叔榮
- 太原王叔匡
- 後主高子

- 陳書卷三十四
- 列傳第二十八
- 文學 杜之偉 江德藻

- 陳書卷三十三
- 列傳第二十七
- 儒林 沈文阿

- 陳書卷三十二
- 列傳第二十六
- 孝行 殷不害

- 陳書卷三十一
- 列傳第二十五
- 蕭濟 顧野王

- 陳書卷三十
- 列傳第二十四
- 毛喜 蔡徵

- 許亨 褚玠
- 岑之敬 陸球
- 何之元 徐伯陽
- 張正見 蔡凝

- 陳書卷三十五
- 列傳第二十九
- 熊曇則 周迪
- 留異 陳寶應

- 陳書卷三十六
- 列傳第三十
- 始興王叔陵 新安王伯固

- 陳書卷一
- 唐 敬 騎 常 侍 姚 思 廉 撰

- 本紀第一
- 高祖上

高祖武帝諱高祖先字興國小字法生吳興長城下苦里人漢太丘長陳寔之後也世居潁川寔玄孫齊王太子尉粲生匡匡生達承嘉南遷爲丞相採歷太子洗馬出爲長城令悅其山水遂家焉嘗謂所親曰此地山川秀麗當有王者興二百年後我子孫必鍾斯運達生康復爲丞相採成和土斷故爲長城人康生肝胎太守英英生尚書郎公弼公弼生步兵校尉鼎生散騎侍郎高生懷安文詠詠生安成太守猛猛生太常卿道臣道臣生皇考文讚高祖以梁天監二年癸未歲生少微當時所推服身長七尺五寸日角龍顏垂手過膝背逾義興館於許氏夜夢天開數丈有四人朱衣捧日而至

高祖開口納馬及覺腹中猶熱高祖心獨異之大同初新喻侯蕭瑛爲吳興太守甚重高祖嘗曰高祖謂僚佐曰此人力將遠大及瑛爲廣州刺史高祖爲中直兵參軍隨府之鎮嶽合高祖招集士馬聚至千人仍命高祖監宋隆郡所部安化二縣不資高祖討平之尋監西江督護高要郡守先是武林侯蕭諮爲交州刺史以哀刺失衆心人李實連結數州豪傑同時反臺遣高祖刺史孫秀周李實盧子雄將兵擊之時不特高祖皆於廣州伏誅子雄與同子姪及其主帥杜天合杜僧明共舉兵救南江督護沈道遠廣州晝夜苦攻州中震恐高祖率精兵三千卷甲兼行以救之頓戰屢捷天合中流矢死賊衆大潰僧明遂降梁武帝深歎異焉授直閣將軍封新安子邑三百戶仍遣畫工圖高祖容貌而觀之其年冬蕭瑛卒明年高祖送喪還都至

大庾嶺會有詔高祖爲交州司馬領武平太守與刺史楊勝南討高祖益招勇敢器械精良戰無不捷勝者必陳司武也委以經界高祖與衆軍發自番禺是時蕭勃爲定州刺史於西江相會勃助高祖曰交趾叛罪非由之因說說勝集諸將問計高祖對曰欲賊罪日目前宗室遂使僧勝亂數州備歷年檢定州復欲賊罪非由之顧大計節下奉辭伐罪放當生死以之豈可畏懼宗室輕於國憲今若奪人沮衆何必交州討賊問罪之師即回有所指矣於是勒兵鼓行而進十一年六月軍至交州貴衆數萬於蘇江口立城柵以拒官軍推高祖爲前鋒所向摧陷貴衆悉潰湖於屈覺界立若大造船艦充塞湖中衆軍憚之頓湖口不敢進高祖謂諸將曰共師已老將士疲勞歷歲相持恐非良計且孤軍無援入人心腹若一戰不捷豈望生全今藉其屜舍人情未因夷瘴烏合易爲推珍正當共出死決力之無故留時事去矣諸將皆默然莫有應者是夜江水暴起七丈注湖中奔流迅激高祖所部兵乘流先進衆軍鼓譟俱前賊衆大潰貫竄入屈覺洞中屈覺斬首京師是歲太清元年也貴兒天寶遁入九真與劫帥李紹隆收餘兵二萬殺德州刺史陳文戒進圍愛州高祖仍率衆討平之除振遠將軍西江督護高要太守督七郡諸軍事二年冬侯景寇京師高祖將率兵赴援廣州刺史元景仲陰有異志將圖高祖知其計與成州刺史王懷明行臺運即殿外臣等密謀殺賊三年七月集義兵於南海馳驟以討景仲景仲窮蹙懸于閣下高祖禮蕭勃鎮廣州是時臨賀軍使歐陽頔監潯陽郡勃令高祖率衆救之二人傾于嶺上并厚結始與豪傑同謀義舉侯安都張僧等率千餘人來附蕭勃問之遣鍾休悅說高祖曰侯景號雄天下無敵前者拔軍十萬士馬精強然而莫敢當鋒遂令竭賊得志君以區區之衆將何所之如問嶺北王侯又皆鼎沸河東桂陽相次屠戮郡陵關連親等干戈李連任許身當陽賜馬仗以君疎多福高祖泣投木末若且住始與張聲勢成造往山白求多福高祖泣投木末若且住始與張聲勢成造往山白求多福高祖泣投木末若且住始與張聲勢成造往

其二子而通高祖率眾出廣陵應接會將郭元建奔戰嗣等退據石頭丁丑載及北夷來降高祖撫而釋

齊高祖納其部曲三千人而還備辦高祖鎮京口五之以嗣寇寇逼卷甲還都命周文育進討杜龔十一月

月齊遣辛術閣嚴起達於泰郡高祖命徐度領兵助其已卯齊遣兵五千濟渡據姑孰高祖命合州刺史徐度

固守齊眾七萬與起達上山穿地道攻之甚急高祖乃於冶城寺立柵南抵淮清齊又遣安州刺史翟子崇

自率萬人解其圍縱兵四面擊齊軍弓弩亂發齊人王中流失死斬首數百級齊人收兵而退高祖振旅朱

歸遣記室參軍劉本仁獻捷於江陵七月廣陵衛兵朱盛張家潛結兵襲齊刺史溫仲德遣使來告高祖率眾

濟江以應之齊人來聘求割廣陵之地王僧辯許焉仍報高祖高祖於是引軍還南徐州江北人隨軍而南

若萬餘口承制授高祖使持節散騎常侍都督南徐州諸軍事征北大將軍開府儀同三司南徐州刺史徐

如故及王僧辯率眾征陸納於湘州承制命高祖代鎮揚州十一月湘東王位於江陵改大寶三年為承聖

元年湘州平高祖旋鎮京口三年三月進高祖位司空餘如故十一月西魏攻陷江陵高祖與王僧辯等進啓

江州請晉安王以太宰承制又遣長史謝哲奉茂勸進十二月晉安王自尋陽入居朝堂給高祖班劍二十

人四年五月齊送貞陽侯明還王社稷王僧辯納之即位改元曰天成以晉安王為皇太子初齊之請納貞

陽也高祖以為不可遣使詰問齊若爭之往還數四僧辯竟不從高祖居常憤歎密謂所親曰武皇雖擊石之

宗遠布四海至於剋雪離恥寧濟難唯孝元而已功業茂盛前代未聞我與王公俱受重寄語未絕音聲猶

在耳聖期一旦便有異圖嗣主高祖之孫元皇之子海內屬目天下宅心竟有何辜坐致廢黜遠求狄狄假

非次觀其此情亦可知矣乃密具袍數千領及錦絲金銀以為賞賜之具九月壬寅高祖召徐度侯安都周文

育等謀之仍別將士分賞金帛水陸俱進是夜發城北徐度王僧辯甲辰高祖步軍至石頭前道勇士自白

北踰入時僧辯方視事外有兵俄而兵自內出僧辯遽走與其第三子頗相俱出問左右尚數十人苦戰

高祖大兵尋至僧辯眾寡不敵走登城南門樓高祖因風縱火僧辯窮迫乃就擒是夜縱僧辯及頗而午貞陽

侯遜位百餘奉晉安王上表勸進十月己酉晉安王即位改承聖四年為紹泰元年壬子詔授高祖侍中大都

督中外諸軍事車騎將軍揚南徐二州刺史持節司空班劍鼓吹如故仍詔高祖甲仗百人出入殿省震州

刺史史彥深與義興太守章載同舉兵反高祖命周文育率眾攻載於義興倉造其弟北州刺史侯安

都石州刺史史彥深與辛未高祖表曰東討留高祖表侯安都石州刺史史彥深或至三數升大如

都石州刺史史彥深與辛未高祖表曰東討留高祖表侯安都石州刺史史彥深或至三數升大如

水柵泰州刺史史彥深與辛未高祖表曰東討留高祖表侯安都石州刺史史彥深或至三數升大如

史任約共舉兵應載齊人資其兵食嗣徽等以京師空虛率精兵五千奄至關下侯安都領驍勇五百人出

戰嗣徽等退據石頭丁丑載及北夷來降高祖撫而釋

告天以齊人背約發言慷慨涕泗交流同盟皆莫能仰

視士卒觀者益奮辛丑齊軍於秣陵故縣跨淮立柵橋

引渡兵馬其夜至方山侯安都周文育徐度等各引獵

京師侯安都齊兵自方山進及見塘游騎至葛周文育

安配泰白土崗旗鼓相臺都邑駭步復得柵橋百餘

氏義興國夫人詔曰宣二月庚午蕭勃舉兵自廣州

度嶺南康遠共將歐陽顛博泰及其子致為前軍至

於陳章分屯要險南江州刺史徐孝瑒起兵應高祖

命周文育侯安都率眾討平之八月甲午進高祖位大

傳加黃鉞劍服上殿入朝不趨賀拜不名并給羽葆鼓

吹一部其侍中皆督錄尚書領大將軍揚州牧義興

郡公班劍甲仗油幢綠油車如故丙申高祖前後

部羽葆鼓吹是時湘州刺史王琳擁兵不應高祖遣

周文育侯安都率眾討之九月辛丑詔曰擊昔元胎剖

判大素氣靈崇建人皇必惡洪宰故賢哲之後收伯征

於四方神武之君大監治乎萬國又有一匡九合渠門

之賜以隆慶帶溫行宮之寵斯茂時危所以貞固運

泰所以光熙斯乃千載同風百王不刊之道也太傅義

興公九文允武通聖通神固天生德康濟數首昔在休

期早隆朝寄遠逾滄海大拯交越皇運不造書契未聞

中國其亡兵凶總至哀哀唯願孽彼窮年悠悠上天莫

云斯極否終則泰元輪應救此將前拔茲已滌乘舟

履屢架險浮深深翠中途畢職載藉前王石頭執流

隨履賜一朝指揚六合清晏是用光昭下武翼於中都

雪三后之勃雉三靈之巨應亮台岳佐未始能階殿

相周師固非云振重之以屯剋餘象刑楚大崩天地無

心乘輿與御五胡薦食競謀諸夏八方基跡莫有臣救

強臣放命黜我沖人顛影於茶毒之理甘心於簿卿之

辱却按下營求哀之路莫從竊賊逃責容身之地無所

公神兵奄至不日清澄惟是居家再膺天錄斯又魏魏

蕩蕩無德而稱焉加以仗茲忠義屠後妖逆震部夷氛

稽山罷嚴番禺澤北鄴西鄴城因徒營無遺種斯

則兆民之命修短所繫率土之基興亡是賴於是刑禮

兼訓公羊有章中外咸平遐邇寧一用能使陽光合魄

曜象呈輝樓閣遊庭抱仁合信密軌於厚地大道格

於玄天義農災災以來卷領垂衣之世聖人濟物未有

如斯者夫大備物典策相文是膺助理陰陽蕭蕭不讓









一級辛未與駕親祀北郊日有冠二月辛卯老人星見

乙未高州刺史紀自軍叛還宣城據郡以應王琳

令賀當遷討平之丙申太守侯瑛敗王琳于梁山攻齊

兵于博望生擒齊將劉伯球盡收其資儲船艦停戰以

萬計王琳及其主蕭莊奔于齊戊戌詔曰夫五運遞來

三靈命皇王因之改創殷周所以樂推朕統歷承

不歷亂運期理必在符命是以逐鹿賡歌斷地定業

求故知神聖之重必在符命是以逐鹿賡歌斷地定業

亂臣賊子異世同尤王琳識暗孽擬想衛足干紀亂

常自貽顛沛而精神君子多被繁雜難避涇渭合流

同肆求之厥理或有符從今九豎既設八紘斯掩天

恢恢吞舟是漏至如伏波遊說示作漢蕃延壽脫歸

為魏守器改奉虞材通晉楚行藏用捨亦豈有恒宜

寬仁以彰雷作其衣冠士旅預在凶黨悉皆原宥將

戰兵亦同肆育並隨才益引庶收力用又詔師旅以

軍士死王事者並加贈諡曰亥詔曰日者久渠肆虐

軍連討舟楫輪積權僭丁師出經時役勞日久氣

祿廉清宜有就祿可獨復丁身夫妻三年於役不幸

復其妻子庚子分遣使者齎蠶書慰勞四方已遣太

尉侯瑛鎮宣城庚戌以高祖第六子昌為驍騎將軍

州牧立為衡陽王三月丙辰詔曰自喪亂以來十有

載編戶凋亡萬不遺一中原庶庶蓋云無幾頃者寇

仍接算繁多且與師以來千金日費府藏虛竭杼軸

蕩空近所置軍資本充戎備今元惡克殄八表已康

支靜敢息肩方在思俾餘黎陶此寬賦今歲軍糧通

三分之一尚書申下四方稱朕哀矜之意辛辛明加

課務急農桑庶庶復在茲日蕭莊所署南郡州刺

史孫瑒舉州內附丁巳江州刺史周迪平南中書

熊雲南傳首京師先是齊軍守魯山城戊午齊軍

走詔南豫州刺史程靈洗守之甲子分荆州之天門

陽南平鄂州之武陵四郡置武州其刺史督沅州領

陵太守治武陵郡其都尉所部六縣為沅州別置通

郡以刺史領太守治都尉治都尉以安南將軍南

兗州刺史新除右衛將軍吳明微為安西將軍武州

史為鄧州刺史孫瑒為安南將軍湘州刺史丙子衛

王昌慶丁丑詔曰蕭莊僞署文武官屬還朝者量

序夏四月丁亥立皇子伯信為衡陽王泰獻王後乙

以安南將軍蕭瑄為安北將軍合州刺史五月乙卯

桂陽之汝成縣為盛陽郡分衡州之始興安遠二郡

東衡州六月辛巳改詔皇祖妣景安皇后曰景安皇

子長詔曰梁孝元遭離多難靈輿播越朕昔經北南

異常倫遣使迎接以次近路江寧既有舊堂宜即安

車旗禮章悉用梁典依魏漢獻帝故事甲午追策故

始興昭烈王妃曰孝妃丁酉以開府儀同三司徐度

侍中中軍將軍辛丑周袁周忌上臨于太極前殿百

陪哭哀京師死已下是月梁元帝於江寧秋七月

復其家... 六年春正月甲午... 差孝力田... 尹丹陽... 許還本... 侍中書... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

父役者... 詔曰朕... 業難類... 教未弘... 子華臣... 起自艱... 事不獲... 儻下不... 前後相... 籤於階... 終梗槩... 陳吏部... 問蓋亦... 肖其有... 功庸著... 效放業... 弗及用... 允武之... 聰明用... 世祖紀... 設無導... 大舍下... 擢一本... 唐 散 騎 常 侍 姚 思 廉 撰

天康元... 幼勞思... 賜累月... 赦天乙... 軍開府... 夏四月... 復其家... 六年春... 差孝力... 尹丹陽... 許還本... 侍中書... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

天康元... 幼勞思... 賜累月... 赦天乙... 軍開府... 夏四月... 復其家... 六年春... 差孝力... 尹丹陽... 許還本... 侍中書... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

軍開府... 刺史安... 七月癸... 申儀賢... 首京師... 室多故... 生氣無... 位之主... 三業緒... 陵谷或... 赦無復... 讓受暨... 車駕巡... 山之墳... 牧猶眾... 高留連... 者也朕... 烈墳家... 探忠幽... 王伯恭... 癸未罷... 聘十二... 軍開府... 大將軍... 中護軍... 洗為宣... 東中郎... 刺史癸... 寐味于... 在弗覺... 戒序云... 京師

特降為臨海郡王送還藩邸太傅安成王固天生德齊聖廣濟二后鍾心三靈行春自前朝不念任總那家威惠相宜刑禮兼設指揮噴吐湘鄂清開地功名會何益風靡大皮之承股歷中節之奉漢家祠以功名名會何勞靡且地彰靈聖表長替布新除舊祈祥成順文皇知子之慶事其幸焉傳弟之懷久符太子伯可選中贊志崇立賢君方固執載負辰象中外宜依舊典奉迎與駕未亡人不幸屬此般般不有崇替答社禮何以拜祠高駘歸附武園攬筆潸然兼懷悲慶是日出居別第大建二年四月薨時年十九帝仁弱無人君之器世祖每慮不堪繼業既若家嫡廢立事重是以依違積載及疾將大漸召高宗謂曰吾欲遠太子之事高宗初未達旨後終乃拜伏涕泣固辭其後宣太后依詔廢帝焉史臣曰臨海雖繼體之重仁厚懦弱一足非不驚得喪蓋帝擊漢惠之流也世祖知神器之重諒難負荷深鑒其言弗傳實祥焉

唐 散騎常侍 姚思廉 撰  
本紀第五 宣帝

高宗孝宣皇帝諱項字紹世小字師利始興昭烈王第二子也梁大通二年七月辛酉生有赤光滿室少寬大多智畧及長美容儀身長八尺三寸手垂過膝有勇力善騎射高祖平侯景鎮京口梁元帝徵高祖子姪入侍高祖遣高宗赴江陵景官為直閣將軍中書侍郎時有馬軍王李德與高宗有舊高祖密遣高宗密使歸酒張燈而寐總適出尋返乃見高宗身是女龍總便驚駭走避化室及江陵路高宗還于關右永定元年遙襲封始興郡王也二千戶三年世祖嗣位改封安成王天嘉三年自周還授侍中中書監中書侍郎置佐史尋授使持節都督揚南徐東揚南豫北江五州諸軍事揚州刺史進號驍騎將軍餘如故四年加開府儀同三司六年遷司空天康元年授尚書令餘如故廢帝即位拜司徒從駕驍騎將軍錄尚書都督中外諸軍事給班級三十人光大二年正月進位大傅領司徒加殊禮廟庭上殿增邑并前三千戶餘並如故十一月甲寅慈訓太后令廢帝為臨海王以高宗入纂

大建元年春正月甲午即皇帝位于太極前殿即日夫聖人受命王者中興並由德德方作元后高祖武帝推拜堯圖經繪禹跡配天之業光辰象而利貞格地之功倅川岳而長遠世祖文帝體上聖之姿當下武之

運築宮室儉所務雖德定鼎初基厥謀斯在朕以寡薄才非聖賢夙荷前規方傳景祚雖復親承訓誥志守蕃維詠季子之高風思忠陽之遠託自元儲亂臣正位若艱難無非我仲周則崇宣國王朕躬我心確鑿誓若吳而華落降請相繼謂請文母尊嚴懸心長策對揚豐祚非止虞湯之三辭履涉春冬何但代王之五讓今便肅奉天策承承介主若孫治漢論增就樂思所以雲行兩施物咸亨當與熙熙斯同斯慶可改光武三年為大建元年大赦天下在位文武賜階一階孝悌力田及為父後者賜爵一級異等殊才並加策序騶寡孤獨不能自存者人賜錢五斛復為皇太后尊號曰皇太后立妃柳氏為皇后世叔叔復為皇太子皇太子中郎將江州刺史康侯侯叔陵為始興王奉昭烈王祀乙未與焉高祖大廟西分命大使巡行四方親省風俗征南大將軍開府儀同三司新除中書監中書侍郎置佐史尋授使持節都督揚南徐東揚南豫北江五州諸軍事揚州刺史進號驍騎將軍錄尚書都督中外諸軍事給班級三十人光大二年正月進位大傅領司徒加殊禮廟庭上殿增邑并前三千戶餘並如故十一月甲寅慈訓太后令廢帝為臨海王以高宗入纂

大將軍新除中書監中書侍郎置佐史尋授使持節都督揚南徐東揚南豫北江五州諸軍事揚州刺史進號驍騎將軍錄尚書都督中外諸軍事給班級三十人光大二年正月進位大傅領司徒加殊禮廟庭上殿增邑并前三千戶餘並如故十一月甲寅慈訓太后令廢帝為臨海王以高宗入纂

大將軍新除中書監中書侍郎置佐史尋授使持節都督揚南徐東揚南豫北江五州諸軍事揚州刺史進號驍騎將軍錄尚書都督中外諸軍事給班級三十人光大二年正月進位大傅領司徒加殊禮廟庭上殿增邑并前三千戶餘並如故十一月甲寅慈訓太后令廢帝為臨海王以高宗入纂

大將軍新除中書監中書侍郎置佐史尋授使持節都督揚南徐東揚南豫北江五州諸軍事揚州刺史進號驍騎將軍錄尚書都督中外諸軍事給班級三十人光大二年正月進位大傅領司徒加殊禮廟庭上殿增邑并前三千戶餘並如故十一月甲寅慈訓太后令廢帝為臨海王以高宗入纂

屈戌申車騎將軍開府儀同三司章昭達進號驍騎大將軍安南將軍廣州刺史沈欽德鎮南將軍於八月甲申介懷遠以德惟懷化亭候不絕宣華其本志願平江介懷遠以荒境自投在都邑及諸州鎮不問遠近並調課役若克平舊土反我侵地皆許還鄉一無拘限州郡縣長明加甄別良田廢村隨使安處若輒有諫訂即以授民論又詔曰民惟本本在典謨治國愛民抑又通訓朕聽朝案罷日景劬勞方流惠澤草萊德化有梁之季政刑廢缺條網弛散濬登登與後賦征徭尤為煩刻大陳御寓茲茲餘策減戢象弗違創年代彌流從臣弟約已濟民雖物無充君執與足便可刪革去未收即列在所言上折除軍士年登六十悉許放還巧手於役死亡及與老疾不勞訂補其籍有巧隱井王公百司輒受民為程蔭解還本屬問聽首在職治事之身須通相檢示有失不推當局任罪令長代換具條解舍戶數付度後人戶有增進即加擢賞若致誠散依事推結有能聖起荒田不問畝多少依舊調稅戊子太

為特進護軍將軍冬十月乙酉與駕親祀太廟十一月辛酉高麗國遣使獻方物十二月癸巳夜西北有雷

為特進護軍將軍冬十月乙酉與駕親祀太廟十一月辛酉高麗國遣使獻方物十二月癸巳夜西北有雷

為特進護軍將軍冬十月乙酉與駕親祀太廟十一月辛酉高麗國遣使獻方物十二月癸巳夜西北有雷

戊子以中樞大將軍開府儀同三司黃法氍為征南大將軍南豫州刺史石玉榮劉尚書侯嗣王勳辛未月辛巳待中鎮守將軍景雲見茂廣日日之大事受朕與戎師出以律粟乘於廟所以又安九有克成七德自顧掃蕩穢穢清諸夏乃馳騁之戮力亦惟靡之運籌難左視已戡干戈載戰呼韓來講亭都無警但不放民戰是謂棄之仁必有勇無志武備備深之傳詔詔殺城之授神符文叔懲戒我戒孟德願言兵略朕既懸暗合良皆披覽兼昔經昔戎備嘗行陳齊以七步肅之三鼓得自胃襟指掌可述今並條制凡十三科宜即班宣以爲承准乙未詔督管湘江二州通租無錫等十五縣流民拉謂其縣賦秋九月庚子朔日有蝕之辛亥大赦天下又詔曰聖德嗣守寶圖雖世襲隆平治非寧一辨方分職朕以寡德嗣守寶圖雖世襲隆平治非寧一辨方分職朕以寡德嗣守寶圖雖世襲隆平治非寧一辨方分職

朕以寡德嗣守寶圖雖世襲隆平治非寧一辨方分職朕以寡德嗣守寶圖雖世襲隆平治非寧一辨方分職

朕以寡德嗣守寶圖雖世襲隆平治非寧一辨方分職朕以寡德嗣守寶圖雖世襲隆平治非寧一辨方分職

朕以寡德嗣守寶圖雖世襲隆平治非寧一辨方分職朕以寡德嗣守寶圖雖世襲隆平治非寧一辨方分職

與駕親祀太廟二月辛丑與駕親祀明堂乙卯夜有白... 氣如虹自北方貫北斗紫宮三月壬午分命諸軍北伐... 以鎮前將軍開府儀同三司吳明徹都督外討諸軍事...

之後此者所戮止在一身子盾或存髮態白足不容... 久歸武庫長比月支側隱之懷有仁不忍難能雲明留... 廣南賢志未謀城降乙巳皇太子叔明為宜都王叔獻為...

州為涪州移涪州鎮於新昌郡以秦郡屬之則昭神農... 二郡遺隸南兖州夏四月丙辰有星孛于大角庚寅監... 豫州陳根於所部得青牛獻之昭暹字民甲午與馮...

六年七月通租田米夏夏調綿絲石麥等五年訖七... 年通糶首悉原之秋七月乙亥自濟國遣使獻方物尹... 江夏王伯義為合州刺史乙酉以輔軍將軍孫瑒都督...

鎮建安夏馬山江乘臨浙湖熟等六縣屬揚州戊子以尚書左僕射陸績為尚書僕射十一月辛丑以鎮西將軍孫瑒為鄆州刺史十二月乙亥合州廬江蠻田伯興出寇經陽刺史魯廣達討平之

十一年春正月丁酉龍見於南兖州承寧樓側池池二月癸亥與魏親耕籍田三月丁未詔准北義人率戶口歸國者其本屬舊名置立郡縣即隸近州賦給田宅

曹周分六職設官理務各有攸司亦幾刑罰措而世彌承就積才用康庶績朕日昃劬勞思欲仗茲而機委高擁政道未疑夕惕于懷罔知彼濟方欲仗茲而機委成股肱微名責實取寧多士自今應尚書曹府寺內省監司文案悉付局參議分判其軍國興造發遣序序三獄等事須詳斷然後啓聞凡諸辭決務令清又約法守制較若畫一不得前後舛互自相矛盾致有任滯紲

意舞文糾聽所知靡有攸故甲寅詔曰舊律以枉法受財為坐雖重直法容貲其制甚輕豈不長彼貧賤生其舞弄事涉貨財寧不尤切今可改不枉法受財者將同

正盜六月庚辰以鎮西將軍王叔英為鎮西將軍江州刺史丙戌以征南將軍江州刺史鄧元為江州中權將軍江州刺史王叔英為江州中權將軍

與魯幸大壯觀開武成與魯還宮十月甲戌以安前將軍祠部尚書安王伯恭為軍師將軍尚書僕射陸績為尚書左僕射十一月辛卯詔曰畫冠犯軍此

道匪階雖照盛美吳日吳勃勞夜分較而還淳反其春飲之人類於牢狂周成刑措漢文斷獄軒空勞選焉既遠加以獲爾爾徒朕我彭汭汝張庶余鍾王魯

治兵營旅存孫救飛勢宛眾征賦頗煩著而邪寒窮忘吞怨兼宿度乖舛次舍違方若曰之誠責歸元首愧

心斯積馭朽非懼即建于今月徵陽初動應此嘉辰宜播寬澤可大赦天下甲午周遣柱國梁士彥率眾至肥

口戊戌周軍進開壽陽辛丑以車騎將軍開府儀同三司南兖州刺史淳于量為上流車騎都督中領將軍吳

都督北討諸軍事加安北將軍散騎常侍左衛將軍樊步騎三千趣陽平郡樊步騎三千趣秦郡丙午新除仁威將軍右衛將軍魯廣達率眾入淮是日

馬頌奏歷陽沛北淮南梁等九州竝自拔還京師魏北徐州又陷自是淮南之地盡沒于周矣已詔曰昔堯舜在上茅屋土階禹湯為君若若杖藜帶至如甲帳珠

華帳寶帶未能雅雅徒問欲朕企仰前聖思求於平正道多違洗風又靡至今貴里豪家金鋪玉為貧居

巷託食衣稱物平施何其遺遠燧烽未息後賦兼勞文吏貪貪妄動科格重以旗亭關市稅欲繁多不廣都

內之錢非供水衡之費過過商賈當謀私蓄積懷聚聚宜事改張弗引王道安拯民益今宜物主衣例若諸

游長掖庭白非秦國皆須不得繕造眾物後禮樂府儀優不合雅正並可刪改市估津稅軍令國章更須詳定

唯務平允刑罰雖嚴宮闈野外非恒禦宴勿復飾治并抑內外文武車馬宅舍皆備約勿尚奢華違我親視

遺平北將軍流恪電將軍裴子烈鎮南徐州開府將軍徐道奴鎮關口前信州刺史楊寶安鎮白下戊寅以

中領軍樊毅為鎮西將軍都督荆郢巴武四州水陸諸軍事

十二年春正月戊戌以散騎常侍左衛將軍任忠為平南將軍南豫州刺史督江軍防事三月壬辰以平北

將軍盧陵王伯仁為胡左將軍中領軍夏四月癸亥尚書左僕射陸績卒乙丑以宣毅將軍河東王叔英為南

徐州刺史已卯大秀壬午五月癸巳以軍師將軍尚書右僕射安王伯恭為尚書僕射六月壬戌大風鳳皇門中閏秋八月己未周使持節上柱國鄆州總管

等十郡并謝即年田稅祿秩竝各原半其丁租半申至來歲秋登十二月庚辰宣毅將軍南徐州刺史河東王叔英薨

十三年春正月壬午以車騎將軍開府儀同三司淳于量為左光祿大夫中權將軍鎮南將軍鄆陽王伯山即

本號開府儀同三司鎮南將軍鄆陽王伯山即本號開府儀同三司鎮南將軍鄆陽王伯山即

為揚州刺史軍師將軍尚書僕射安王伯恭為尚書左僕射右將軍丹陽王徐陵為中書監領太子詹事

部尚書表意為尚書右僕射庚寅以輕車將軍宿衛卿宜都王叔明為南徐州刺史二月甲寅詔賜馬消難

所部四月大將軍出廣等封爵各有甲乙亥詔賜親耕籍田五月丙辰已分衡州始興郡為東衡州衡州為西衡

州五月丙辰已分衡州始興郡為東衡州衡州為西衡州五月丙辰已分衡州始興郡為東衡州衡州為西衡

以新除中護軍樊毅為鎮西將軍軍師將軍九月癸亥夜大風至自西北發屋拔樹大雷震冬十月癸未以散騎常

侍丹陽王毛喜為東部尚書護軍將軍樊毅為鎮西將軍荆州刺史改鄆陽郡為吳州王寅丹丹國遣使獻方

物十二凡辛巳暮星見己亥以胡右將軍衛尉卿沈恪為護軍將軍

十四年春正月己酉高宗弗豫甲寅崩于宣福殿時年五十三道詔曰朕爰自邁疾會未決司醫藥不瘳使屬

陳書卷五考證  
宣帝紀梁大通二年七月辛酉生○大通南史作中大通  
通

時有馬軍主李總與高宗有舊○南史無馬字  
十月己亥夜地震○臣人龍按上文書冬十月乙酉紀

太廟戊戌以沈恪為領軍則此不應復書十月若南史作十一月而不書朝以上戊戌證之亦恐有誤

分命梁軍北伐○南史云是歲諸軍略地所在捷捷重下文詳敘者小異

壬辰以前尚書右僕射王瑒為尚書右僕射○下右字衍臣人龍按南史云以前尚書右僕射為尚書僕射則知右字之為衍文矣

已酉周廣義義主曹榮率眾入關○南史主字上有軍字

陳書卷六  
唐散騎常侍姚思廉撰

後主諱叔寶字元秀小字黃奴高宗始長于也梁承聖二年十一月戊寅生于江陵明年江陵陷高宗避關右

留後主于穰城天嘉三年歸京師立為安成王世子天嘉四年正月甲寅高祖崩乙卯始與王叔陵作逆伏誅了

已太子即皇帝位于太極前殿詔曰上天降禍大行皇帝奄棄萬國舉國號無所適及朕以哀亮嗣膺寶歷

若涉巨川罔知攸濟方賴羣公公用巨算薄思播德覃被德田為父後者並賜爵一級祿老驥不能自存

南將軍平南將軍湘州刺史建安王叔卿進號安南將軍以侍中中書監安右將軍徐陵為左祿大夫領太子少傅甲戌茂無導大會於大極殿三月辛亥詔曰

令安達若已預任官及別有私事不欲去者亦隨其意躬推為勳義頭前經力農實事昭往嘉斯乃國儲是六月癸酉朔以明威將軍通直散騎常侍孫瑒為中護軍民命收屬豐檢隆替靡不由之夫人賦自古輪葉惟軍秋七月辛未大赦天下是月江水色赤如血自京師

賈沃饒費于十金號稱至三易號者既其益縮不同詐偽日與薄書歲成稻田使者自西京不賈賈刑罰諸東漢老農懼於祗應俗吏而侮文報未成羣游手為伍承言勸蠶良可太息今陽和在節符澤潤下宜展春拂以望秋抵其有新開陝賊進擊高葉庶衆勿得度肆征租悉皆停免私久虞咸許占作公田荒穢亦隨

為格德守教耕淳民載酒有茲督課議以實權外司雖困革備陳弛張或異至於勞求復又迭制徵用道和葉是隆大厦上智中主成由此術朕以算簿嗣膺景祚雖哀疾在躬情慮懽懽而宗社任重黎庶勞歿無由自安拱默取志康濟思所以登顯髦彥式備周行但空勞宵夢屢勸史下五就莫來五能不至是用甲且疑慮丙夜損懷豈以食玉炊桂無因自達將懷憤述那咸思獨善應內外眾官九品已上可各薦一人以會業征之

吉且取備賈難舉長或易小大之用明言所施勿得南箕北斗名而非實其有負能任氣擅權當時者實飲自儆卒客嘲以慰志人一生世逢遠誠難亦宜去此幽谷翔茲天路趨銅馳以親望金馬而來庭便富體彼方圓筋之矩矱又詔曰昔者后辛民哲王御高維德稱汪濊明能普燭猶復紆己乞言情訪適高岳岳收下聽與豈敢能政若神明事無悔吝朕蒙承不緒思隆大業常懼九重已遠四聰未廣欲聽昌言不疲羶足若逢廷折無憚批鱗而口柔之辭儻聞於在位腹誦之意或隱於具僚非所以弘理至公緝熙帝載者也內外卿士

文武眾司若有智周政術心練治體救民俗之疾苦辭禁網之疎密者各進忠諫無所隱諱朕將處己聽受擇善而行庶深察物情匡我王度而已以侍中尚書左僕射新除湖前將軍晉安王伯恭為安南將軍湘州刺史新除湖左將軍承陽王伯智為尚書僕射中護軍章大寶為豐州刺史夏四月甲申立皇子承康為皇太子子賜天下為父後者爵一級王公已下各品各有差庚子詔曰朕臨御區宇撫育黎烝方欲康濟薄海首繁費者儕乘重責宜防斷應錢金銀簿及庶物化生土木人絲花之屬及布帛襦尺短狹輕者並廢財廢業尤

成蟲患又僧道士扶邪左道不依經律民間淫祀祇書珍事詳為條制並皆禁絕秋詔曰中歲宜定惟酒爰涉青徐彼土酋豪竝輪聲翫分造親成其費在今舊土論陷復成異域南北阻遠未得會同念其分乖殊有愛戀吳秋民斯事一也何獨禁禁使彼離折外可仰檢任子館及東館并帶保任在外者並賜表

存者人殺五斛九月癸未太白晝見冬十月己酉朔耕耨自足乃曰淳風貞賦之興其來尚矣蓋由庚辰務獲已而乃行焉但於今滋章姦盜多有俗尚澆詐鮮不獲已朕日行夜分法令之失所滋辜罪已愧三千之罪冀朕日行夜分法令之失所滋辜罪已愧三千之

惟其朕日行夜分法令之失所滋辜罪已愧三千之罪冀朕日行夜分法令之失所滋辜罪已愧三千之罪冀朕日行夜分法令之失所滋辜罪已愧三千之

帝聖原除在事百僚辨庶務必去取平允無得使公害民為己聲積姦竊道十一月丙寅大赦天下壬申盤靈園遣使獻方物戊寅百濟國遣使獻方物

三年春正月戊午朔日有之庚午以鎮左將軍長沙王叔堅印本號開府儀同三司任西將軍湘州刺史樊震為護軍將軍守東府部尚書領著作陸瑁為東州尚書

大寶舉兵反夏四月庚戌豐州義軍主陳景賢斬大寶民之耳目李雅靈臺靈臺志處刻為茂草三十餘年敬德樂正雅爾之興與日月偕明垂後昆之訓範開生

帝聖原除在事百僚辨庶務必去取平允無得使公害民為己聲積姦竊道十一月丙寅大赦天下壬申盤靈園遣使獻方物戊寅百濟國遣使獻方物

書僕射十一月己卯詔曰惟刑止暴惟德成物三才是

資百王不改而世無時時刑止暴惟德成物三才是

爭桃林逸牛未見其旨雖則悍輕理從掛飲蠶思杜

然宜肆矜弘改之良哉明憲則若求諸刑措安可得乎

是用屬察以輕慎負舖履而於邑復茲合璧輪缺連

珠輝輝黃鍾缺呂和氣始萌玄英告中履長在御因時

史官忠將軍尚書令江總進號中樞將軍雲虎將軍太  
子詹事袁憲為尚書僕射尚書僕射謝佃為特進袁遠  
將軍新除吏部尚書蔡徵進號安右將軍甲辰以安右  
將軍廣濟為中領軍丁巳大風至自西北激濤水入石  
石頭城濤激濤沒舟乘冬十月己亥立皇子蕭為  
吳郡王辛丑以其尚書領大著作姚察為吏部尚書  
己酉西駕幸吳府山大校獵十一月丁卯詔曰夫獄獄  
綏刑皇之所垂範勝殘去殺仁人之所用心自甚  
既息刻吏起法令滋章手足無措朕君臨區宇屬當  
浚末輕重之典在政未康小大之情與言多愧吝茲  
狎有軫哀矜可克日於大政殿訊獄壬申以鎮南將軍  
江州刺史南平王疑為征西將軍州刺史安北將軍  
南徐州刺史承嘉王彥為安南將軍江州刺史軍師將  
軍南海王虔為安北將軍南徐州刺史丙子立皇弟叔  
榮為新昌王叔臣為大原王是月隋遣晉王廣廣成相  
依巴蜀沔漢下流至廣陵數十道俱入緣江鎮戍相  
繼秦開時新除州刺史施文慶中書舍人沈客卿掌  
機密用事並抑而不言故無備禦  
三年春正月乙丑朔驚氣四葉是日隋總管賀若弼自  
北道廣陵濟京口總管韓擒虎趣橫江濟采石自南道  
將會師軍丙寅采石戊子建馳啓告雙丁卯召公  
卿入議軍旅庚辰內外戒嚴以驃騎將軍蕭摩訶護軍  
將軍樊毅中領軍魯廣達並為都督遣南豫州刺史樊  
猛帥舟師出白下散騎常侍皇文泰將兵鎮南豫州庚  
午賀若弼攻陷南徐州辛未韓擒虎又陷南豫州文泰  
敗還至是隋軍南道並進後主遣驃騎大將軍司徒  
豫章王叔英屯蕭摩訶屯樂遊苑焚殺屯守者圍守  
魯廣達屯白土岡忠武將軍孔範屯寶固寺已卯鎮東  
大將軍任忠白吳興人赴仍屯屯在寶固寺已卯若弼  
據鍾山頓白土岡之東南甲申後主遣將軍真猛合戰  
真猛敗績獨乘勝至樂遊苑督廣達猶督散兵力戰不  
能軍備進攻宮城魏北掖門是時韓擒虎率眾自新林  
至于石子岡任忠出降於擒虎仍引擒虎經朱雀航趣  
宮城自南掖門而入於是城內文武百司皆出向淮尚  
書僕射袁憲在殿內尚書令江總吏部尚書姚察度支  
尚書袁憲前度支尚書王瑛侍中王寬在省中後上聞  
兵至從宮人十餘出後宮景陽殿將以身蔽井後主憐  
側苦泣不從後舍人夏侯公韻又以身蔽井後主憐  
爭久之乃得入焉及夜為隋軍所執丙戌晉王廣入據  
京城三月己巳後主與王百司發白建業入于長安  
隋仁壽四年十一月壬子遷於洛陽時年五十二追諡  
大將軍封長城縣公諡曰煬葬河南洛陽之芒山  
史臣侍中鄭國公魏徵曰高祖拔起龍輿有雄策之姿  
始佐下藩衛英奇之器別節南海職思靜亂援旗北邁  
義在勤王掃侯景於既成採案室於已陸天網絕而復

續兩步也而東原自神有不失物物魏王之延漢鼎  
鮮宋武之反音宋與德鴻熱無以尚也于時內難未  
與外勝勤敏王琳作梗於上流周齊搖蕩於江漢畏者  
畏尾若存若亡此之不圖迨移天歷雖皇嘗有應才於  
亡命獲其受金之過吾其吹噓之罪委以心腹爪牙成  
能得其死力故乃決機自勝成此三分方諸鼎峙之雄  
足以無懼權備矣世祖天姿淑清明在躬早預經綸  
知民疾苦思擇令典庶幾至治德刑並用既濟報廣  
克授首偏醫黨禍雖思厚之化未能及遠恭儉之風足  
以垂訓若不高明察則守文之良主也臨川年長於成  
王過徵於太甲甲帝有周公之親無伊尹之志明碎不  
復桐宮遂往欲加之罪其無辭乎高宗委自在田雜量  
宏師於唐御極民歸其厚惠以使用寬以容察習勇爭  
奮師出有名揚旆古未之有也既而君侈民勞將驕  
戰勝攻取之勢迫迫於是有也既而君侈民勞將驕  
情勝藏宏瑒折節師從於是秦人方強運窳兵於江上  
矣李克以為吳之先亡由手數戰數戰數戰則民疲數  
勝則主驕以驕主御疲民未有不亡者也信哉言乎高  
宗始以克大得人終以驕侈致敗文武之業墜于孫矣  
後主生深宮之中長婦人于手既屬邦國於孫不知  
稽顙難初懼危履有哀矜之詔後稍安集復扇淫侈  
之風賓禮諸公唯寄情於文酒昵近翠小皆委之衡  
軸謀謨所及遂無骨鯁之臣權要在莫匪使漢之史  
政刑日紊戶素蓋朝犯荒為長夜之飲宴寵同體妻之  
孽危亡弗恤上下相蒙眾叛親離臨機不殆自投於井  
莫以苛生視其以此求全抑亦自取斯下矣退觀列傳  
武嗣與其始也皆欲齊明日合德天地高視五帝俯  
三王然而雖不有初克終蓋其故何哉並以中唐  
之才懷可移之性口有於仁義心懷於嗜慾仁義利物  
而道遠嗜欲遂性而便身使身不可久遠道遠難以固  
志後高之倫承顏侯色固其所好以悅尊之若下坂以  
走九弊順流而決建非夫威靈長象降生明德孰能道  
其所樂而以百姓為心哉此所以成康景宗千載而罕  
遇矣幸南陽歷代而不有每被宗社身嬰戮辱為天下  
笑可不痛乎古人有言亡國之主多有才藝考之梁陳  
及隋非虛語然則不崇教義之本偏尚淫麗之文陳  
長流偽之風無致亂亡之禍矣  
史臣曰後主昔在諸宮早標令德及南而繼業寔允天  
人之望矣至禮樂明政禮遵故典加以深弘六藝廣  
闢四門以待詔之徒爭趨金馬稽古之秀雲集石渠  
且梯山航海朝貢者往往往來至矣自魏正始晉中朝以  
來貴臣雖有識治者皆以文學相處軍關庶務朝章大  
典方參議焉文案簿領咸委小吏浸以成俗迄至于陳  
後主兩節末造改革故施文慶沈客卿之徒專掌軍國

要務發難左道以哀刻為功自取身榮不存國計是以  
朝經靡爛禍生諸國斯亦運鐘百六鼎主遷變非唯人  
事不昌蓋天意然也  
陳書卷六考述  
後主紀丁卯帝親重為始典王奉昭烈王祀○重一  
本件敘南史同  
是用甲且憂慮而夜相和○甲慮作申  
陳書卷七  
唐散騎常侍姚思廉撰  
高祖章皇后 世祖沈皇后  
廢帝王皇后 高宗柳皇后  
後主沈皇后 高宗柳皇后  
周禮王者立后六宮三夫人九嬪二十七世婦八十一  
御妻以聽天下之內治然受命繼體之主非獨外相佐  
也蓋亦有內德助焉漢魏已來六宮之職因襲增置代  
不同矣高祖承微按亂光騰天歷以朴素自處故後宮  
員位多闕世祖天嘉初詔立後宮員數始置貴妃貴嬪  
貴嫔三人以擬古之三夫人又置淑媛淑儀淑容昭華  
昭儀昭容等儀儀儀儀儀五人以擬古之九嬪又置  
好容華充華承徽烈榮五人謂之五姬亞於九嬪又置  
美人才人良人三職其職無員數就為散位世祖性恭  
儉而嬪嬙多闕高宗後主內職無所改作今之所綴略  
備此篇  
高祖章皇后章氏諱兒吳與烏程人也本性姪父景  
高為章氏所養因改焉景明梁代官至散騎侍郎后母  
蘇嘗遇道士以小龜遺已光五色日三年有徵及期  
后生而紫光照室因失聰所在少聰善美容儀手爪長  
五寸色紅紅白每有并功之服則一爪先折高祖先娶  
同郡錢仲女早卒後乃聘后后善書詩能誦詩及楚  
辭高祖自廣州南征交趾命后與衛陽王昌隨世祖由  
海道歸于長城侯景之亂高祖下至豫章后為景所囚  
景平而高祖為長城縣公后拜夫人及高祖踐祚承定  
九年立為皇后追贈后父景明特進金紫光祿大夫加  
金章紫綬拜后母封后父景明二年安古君卒后父  
合葬吳興明年追封后父為廣德縣侯邑五百戶諡曰  
溫高祖崩后與中書舍人蔡景歷定計祔不發喪召世  
祖入纂事在蔡景歷及侯安都傅世祖即位尊后為皇  
太后官曰慈訓廢帝即位尊后為太皇太后光大二年  
后下令廢廢帝為海王命高宗嗣位太建元年尊后  
為皇太后二年三月申前于紫極殿時年六十五遺  
令喪事所須並從儉約諸有饋奠不得用牲牢其年四

月登位上蓋曰宣太后崩葬萬安陵后親屬無在朝者  
唯族兄鉅治官至中散大夫  
世祖沈皇后諱妙容吳武康人也父法深梁安前中  
諱參軍沈時在吳與景遷使收世祖及后景平乃獲  
免高祖踐祚承定元年后為臨川王妃世祖即位為皇  
后追贈后父法深光祿大夫加金紫紫綬封建成縣侯  
邑五百戶諡曰慈訓后母高祖廢帝即位定廢帝  
即位尊后為太皇太后官曰安慈時高宗與僕射到仲舉  
舍人到仲舉等並受遺輔政知與仲舉相居禁中參  
決眾事而高宗為揚州刺史與左右三百人入居尚書  
省師知見高宗權重陰忌之乃矯勅謂高宗曰今四方  
無事王可還東府經理州務高宗將出而諸議毛喜止  
之曰今若出外便受制於人若如曹爽願作富家翁不  
可得也高宗乃稱疾召師知留之與語使毛喜先入言  
之於后后曰今伯宗年幼政事並委二郎此非我意喜  
又言於廢帝帝曰此自師知等所為非朕意也喜出以  
報高宗高宗因師知自入見后及帝極陳師知之短  
仍自草表請書以師知付廷尉治罪其夜於獄中賜死  
自是政無大小盡歸高宗后憂國計無所出乃密略宦  
者蔣裕令誘建安人張安國使據郡反因此以圖高  
宗安國事覺並為高宗所誅時后左右近侍頗知其事  
后恐連逮驚與並殺之高宗即位以后為文皇后陳亡  
入簡大業初自長安歸于江南頃之幸后兄欽隨世祖  
征伐以功至貞威將軍安州刺史世祖即位襲爵建城  
侯加通直散騎常侍持節督南豫州諸軍事明威高  
軍會稽太守為侍中左衛將軍衛尉卿鄧州刺史高宗  
書曰僕射等遠在僕射射欽無技無能而已已高宗即  
位出為雲麾將軍義興太守秩中二千石大建元年卒  
時年六十七贈侍中特進翊左將軍諡曰成子觀嗣廟  
有學識官至御史中丞  
廢帝王皇后金紫光祿大夫因之女也天嘉元年為皇  
太子妃廢帝即位立為皇后廢帝為臨海王后為臨海  
王妃至德中薨后生臨海嗣王至澤至澤以光大元年  
為皇太子太建元年葬于臨海嗣王為高祖將軍置  
侯史陳亡人長安  
高宗柳皇后諱敬言河東解人也曾祖世隆齊侍中  
監尚書令直隸忠武公柳仲實有重名於梁代官至秘書  
監贈侍中中書令高祖武皇帝女長城公主拜柳馬  
都尉大實中為都尉太守守官后時年九歲除理家事  
有若成人侯景之亂后與弟勳在江陵侯景元帝元帝  
以長城公主之故待遇甚厚及高宗是江陵元帝以后  
配焉承聖二年后生後主於江陵明年江陵陷高宗遣  
于闐右后與後主俱留穢城天嘉二年後主還朝后  
為安成王妃高宗即位立為皇后美姿容身長七尺



二才子垂遺膠初高宗居鄉里先與吳興錢氏女及御位拜為貴妃其有寵後傾心下之每尚方供奉之物其

後主即位尊高皇后為皇太后宮曰弘範當是之時新失陸

南之陸階降臨江又國遭大喪後主病瘳不能聽政其

誅叔陵供大行李邊境防守及百司聚務雖無以後

主之命實皆決之於後後主病瘳乃歸政焉陳亡入長

安大業十一年薨於東都年八十三葬洛陽之山后

性謙謹未嘗以宗族為請雖衣食亦無所分遺弟昭

建中尚世祖女富陽公主拜昭陽郡府後主即位以帝

舅加散騎常侍助性愚癡使酒常曰醉乘馬入殿門為

有司所劫坐免官卒於家贈侍中中護軍后從弟弟莊

清警有鑒識大建末為太子洗馬字中護軍后從弟莊

位稍遜至散騎常侍衛尉卿明元年轉右衛將軍兼

中書舍人名望由是深被恩遇尋遷度支尚書陳亡入

隋為岐州司馬

後主沈皇后諱婆華義同三司寮蔡貞意侯君理女也

母即高祖女會稽穆公主主早亡時后尚幼而喪將適

甚及服畢母至歲時別望恒獨坐涕泣哀動左右內外

咸敬焉高建末三年納為皇太子妃後主即位立為皇

后后性醇謹嘗嗜慈惠敏敏記涉獵經史工書翰初後

主在東宮而后父君理卒后居憂處於別殿哀毀過禮

後主遇后既薄而張貴妃寵傾後宮衣履之政立歸之

后雖然未嘗有所忌怨而居處儉約衣履無錦繡之飾

左右侍衛數百許人唯尋閱圖史誦佛經為事陳亡與

帝俱入後主安及後主薨后白為家辭文甚嚴切陳揚

帝每所起幸恒令從駕及場帝為字文化及所宮后自

廣陵過江還鄉里不知所終后無子養孫麗子后為己

子后宗族多有顯官事在君理傳后叔君公自梁元帝

敗後常在江陵明中與蕭獻蕭駿率叛陷嗣朝後

主權為太子詹事君公博學有才辯善談論後主深器

之陳亡隋文帝以其叛已命斬于建康

後主張貴妃名麗華兵家女也家貧父兄以織席為事

後主為太子以麗入宮是時麗貴嬪為良娣貴妃年十

歲為之給使後主見而說焉因得幸遂有娠生太子深

後主即位後麗為貴妃性聰惠其被寵遇後主每引貴妃

與賓客遊宴貴妃薦諸宮女預焉後宮等咸德之號言

貴妃之善由是愛傾後宮又好厭惡之術假鬼道以惑

後主置淫祀於宮中聚諸妖巫使之鼓舞因參訪外事

人間有一言一事必先知之自後主由是益重麗

內外宗族多被引用及隋軍陷臺城麗與後主俱入于

井隋軍出之晉王廣命斬貴妃於青溪中橋

史臣侍中鄭國公魏徵考覽記書參詳故老云後主初

即位以始與王叔陵之亂被傷於承香閣下時諸婦

竝不得進唯張貴妃待為而柳太后猶居柏殿殿即皇

后之正殿也後主沈皇后素無寵不得侍疾別居三閣

殿至德二年乃於光昭殿起起臨春結綺望仙三閣閣

高數十丈竝數十間其宮閣壁帶縹緗欄檻之類竝以沉

檀香木為之又飾以金玉間以珠翠外施珠簾內有寶

牀寶帳其屏風之屬瑰琦珍麗近古所未有每徵風暫

至香閣數里朝日初照光映後庭其下積石為山引水

為池植以奇樹雜以花果後主自居臨春閣張貴妃居

結綺閣麗妃居望仙閣並交相往來又有

玉女七人張薛二淑媛張儀何婕妤江綰容等七

人竝有寵麗妃以遊其上以宮人有文學者莫大捨等

為女學生後主每引賓客對麗妃等遊宴則使麗麗人

及女學生與仰客賦詩新詩互相酬答採其尤麗麗人

以為曲詞被以抑聲選宮女有容色者以千百數令習

而誦之分部迭進持以相樂其曲有玉樹後庭庭春

樂等六指所歸皆美張貴妃孔貴嬪之容色也其略曰

璧月夜夜滿瓊樹朝朝新而張貴妃髮長七尺覆黑如

漆其光可鑿特聰惠有神姿進止閑暇容色端麗每瞻

視盼瞳光澤溢目照映左右常於閣上觀雜劇于軒廊

宮中遙望望若神仙才辯識記善候人主顏色是時後

主志於政事百司皆奏竝因宦者察脫見李善度進講

後主置張貴妃於膝上共決之李蔡所不能記者貴妃

竝為條疏無所遺脫由是益加寵麗麗後庭而後宮

之家不遵法度有甚於理者但求哀於貴妃貴妃則令

李蔡先啓其事而後從容為言之大臣有不從者亦因

而潛之所言不聽於是張孔之勢熾灼四方大臣預

政亦從風而靡關宦便使之徒內外交結轉相引進

略曰行賞罰無常綱紀昏亂矣

史臣曰詩表關雎之德易著乾坤之其然夫婦之際人

道之大倫也若夫作僱天則愛贊王化則宜太后有其

懿焉

陳書卷七考證

高祖宣皇后章氏傳后母章○后監本誤後今改正

高祖先娶同郡段仲方女○方 本作芳

後主沈皇后自廣陵還江還鄉里不知所終○南

史自廣陵過江於毗陵天祥寺為尼名觀音貞觀中

卒與此小異

唐 歌 騎 常 侍 姚 思 廉 撰

列傳第二

杜僧明字弘昭廣陵臨澤人也形貌妙小而歷官過人

杜僧明字弘昭廣陵臨澤人也形貌妙小而歷官過人

有勇力善騎射兼大同中盧安興為廣州南江督護僧

明與兄天合及周文育竝為安興所器請與俱行預征

徼徠有功為新州助防天合亦有材幹預在征伐安興

死僧明復嗣其子子雄及交州土豪李資反逐刺史蕭

詡諸奔廣州臺遣子雄與高州刺史孫詢討資時春草

已生糧萬方起子雄請待討之廣州刺史新渝侯蕭

驥不聽蕭詡又促之子雄不得已遂行至合浦死者

十六七眾竝懼後演說之不司乃引其餘兵退還蕭

詡得子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

監諸子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

監諸子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

監諸子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

監諸子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

監諸子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

監諸子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

監諸子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

監諸子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

監諸子雄及周與賊交通遲遲不進梁武帝敕廣州

六尺與童兒聚戲莫能及義興人周晉為壽昌海口

戍主見而奇之因召與語文育對曰母老家貧兄幼並

長大困於賦役曾哀之乃隨文育至家就其母請文育

養為己子母遂與之及晉欲滿多文育言還都見於太子

詹事周捨請表名字捨因為寫藝文書景德命兄子

弘讓教之書計弘讓善書景德命兄子弘讓取官實有

文育文育不省也謂弘讓曰誰能學此弘讓曰有

大梁耳弘讓比之教之騎射文育大悅司州刺史陳慶

之與晉同郡素相善晉為前軍軍士慶之使晉將五

百人往新蔡蔡都慰勞白水蠻蠻謀殺晉以人魏事覺

晉與文育相之賊賊甚盛一日之中戰數十合文育

前鋒陷陣勇冠軍中奮於陣戰死文育馳取其尸賊不

敢逼及夕各引去文育身被九創制愈請還葬慶之

壯其節厚加贈道而還之葬於會稽安興為南江督護

啓文育同行累征徼掠所在有功除南浦安興之語在傳

文育與杜僧明攻廣州高祖所敗高祖赦之語在傳

明傳後監州王勳以文育為高祖流令深被委任勳被代

文育欲與勳俱下至大庾嶺勳下者下曰君北下不

過作令長南入則為公侯文育曰是錢便可誰望公侯

下人又曰君須與當暴得銀至二千兩若不見信以此

為驗其夕宿逆旅有賈人求與文育博文育勝之得銀

二千兩且曰辭勳動則其故文育以告勳乃遣之高祖

在高要聞其還也大喜遣人迎之厚加賞賜分麾下配

焉高祖之功侯景文育與杜僧明為前軍克蘭谿投陳

陽頗皆有功高祖被破路死於南野文育為路義所聞

四面歟重矢石而下所乘馬死文育右手持戟左手解

鞍潰圍而出因與杜僧明等相得并力復進遂大敗之

高祖乃表文育為府司馬李遷往據大阜遣其將杜

平虜入瀘石魚梁作城高祖命文育擊之平虜棄城走

文育據其城遷往開平虜敗留老弱於大阜悉還精兵

自將以攻文育其鋒甚銳軍人憚之文育與戰遷往稍

却相持未解會高祖遣杜僧明來援別破遷往水軍遷

往眾潰不敢過大阜直走新淦梁元帝授文育假節雜

信將軍義州刺史遷往又與劉孝尚謀拒義軍高祖遣

文育與侯安都杜僧明相度杜枝葉城於白口拒之文

育頗出與賊逐擒遷往高祖發自南康遣文育等將兵

千開道後侯景將王伯醜據豫章文育走之遂據

其城景前除險將將軍外散騎常侍封東還縣

侯邑五百戶高祖軍至白茅灣命文育與杜僧明常

軍鋒平南陸鵬頭諸城及至姑熟與景將侯子雲戰破

之景平長通面散騎常侍改封南縣侯邑一千戶拜

信義太守景還南陽陽蘭陵陸太守智武將軍散騎

常侍高祖詔王僧辯命文育督眾軍會世祖於吳興

杜龍克之及濟江葉會稽太守張彪得其郡城及世祖

高彭所襲文育時頓城北香巖寺世祖夜性慤之因其